笑顔！笑顔！笑顔！

みどりの学校『やる木』『げん木』『こん木』　１５０　＋１（プラスワン）

令和８年　６月１２日　長崎市立古賀小学校学校だより　R８０３号　校長　桑原　重久

命の尊さと向き合う６月　―「原点」を次世代へ語り継ぐために―

本校では、今月実施される「長崎っ子の心を見つめる教育週間」に合わせ、命の尊さについて深く考える取組を進めてまいります。

決して忘れてはならない「原点」:「６月」そして「７月１日」

この教育週間が始まった背景には、本県で発生した２つの悲劇的な事件があります。2003年７月の長崎市での事件、そして2004年６月１日の佐世保市での事件です。私たちはこれらの事件に対する深い悔恨と、「二度とこのような悲劇を繰り返さない」という強い決意を忘れてはなりません。事件の記憶がない世代の教職員や保護者が増えている今だからこそ、私たち大人は、この原点を語り継ぎ、６月を「命を見つめる特別な期間」として大切にする責任があります。

取り組みの趣旨：いのちを輝かせるために

本週間の目的は、子どもたちが自他の命を大切にする心や、豊かな道徳心を育むことにあります。学校・家庭・地域が一体となり、「地域の子どもは地域ではぐくむ」という気運を高め、子ども一人ひとりの心に寄り添いながら、心豊かな「長崎っ子」を育成することを目指しています。

私たち大人は、どう関わるのか

子どもたちの心の根っこを育てるのは、私たち大人の関わり方そのものです。

「大人が変われば、子どもも変わる」

子どもは身近な大人をモデルとして成長します。まずは私たち大人が良き手本となり、子どもと真正面から向き合う姿勢を見せることが大切です。

「小さなサイン」を見逃さない

挨拶や声かけを通じ、子どもたちの表情や人間関係のわずかな変化に気づけるよう、地域全体で見守りの目を光らせていきましょう。

「命は親からもらった宝物であり、この世で最も大切なもの」です。この教育週間、そしてこの６月は、ご家庭でもぜひ「命の重み」について言葉を交わす時間を持っていただければ幸いです。

以上の思いをもって、６月25日～７月１日を本校の教育週間といたします。